

授業に関するアンケート（2017 年度秋学期・学部） 実施結果に対する授業評価報告

- ・授業アンケート結果の数値や「教員コメント」に基づいて、学科等の総括を概ね 4 ページ以内でご記入ください。
- ・原則として、すべての項目にご記入ください。
- ・可能な限り、箇条書きでご記入ください。

学科等
日本語日本文学科

（1）授業実施に関する質問結果について

1. 授業内容はシラバスに合っていましたか。
科目の特性により若干のばらつきはあるが、それも含めて標準以上の評点があり、大きな問題はなかった。
2. 受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
大教室での授業でややポイントが下がる傾向があるようであるが、おおむね問題はなかったようである。評点も比較的高く、学生の反応を確かめることを心がけているコメントもあり、各教員努力をしていると考えられる。
3. 授業レベルは自分に合っていましたか。
評点自体に大きな問題はなかったが、合っていないと答えた場合、高いのか低いのか記述がないため、今後の授業改善には生かしにくい設問であった。なお、「合っている」としていても、むしろ少し難しいと感じるくらいの方がよいのではないかという意見もあった。
4. 教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。
授業の形態によって、特に大教室の講義についてはポイントが下がる傾向があるが、総体的に見て大きな問題は見当たらない。授業の特性、必要に応じて各教員が改善に努めているようである。
5. 提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
そもそも提出物を求めている科目と求めていない科目があり、時期的にもレポート提出以前の段階での評価なので、数字自体にどれほどの意味があるか疑問であるが、問題になるような点は見られなかった。
6. 言葉による説明だけではなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。
特に大きな問題はないと考えるが、学科の特性上、言葉による説明の重要性を
7. 自主学習を促す工夫がなされていましたか。
評点上、大きな問題はなく、各教員工夫をしているようであるが、この設問によって知らず知らずのうちに受講生が「何かしてもらえるのを待つ」という受け身の姿勢にならないかを懸念する意見があった。
8. 工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。
パワーポイントの要望が多かったようであるが、授業の特性上必要ないと考えた上で他の方法を用いているというコメントが多くあった。パワーポイントについては、それを使わないことで学生自身の学びを主体的に進めるという一面もあり、実物を見せることを心がけているというコメントもあった。また、公平性については、評価を見ていない学生が、何をもって判断しているのか不明である。グループワーク等で公平性の工夫を考えるとコメントもあったが、少数の学生の意見であり、どこまで配慮することがより教育的であるかという検討も必要であろう。

（2）この授業の学修行動に関する質問結果について

9. この授業の予習、復習、自主学習に 1 週当たり平均どれくらいの時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし、授業時間は除く。
科目による差があるが、講義科目において全体に少ない傾向はある。その分演習科目には多大な学習時間をかけているので、ある程度そういった選択と集中は必要ではあるが、学科全体として更なる改善が必要である。
10. あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
科目特性によるばらつきはあるが、全体に自己評価がやや低いようである。質問や意見を言いやすくなるよう、学科全体としての基礎教育の取り組みの課題としたい。

11. あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
学生はさまざまな分野の科目をとっているわけであるから、全体をまとめると標準的な数値に落ち着くことになるのは当然であるといえる。多くの選択肢の中で、各自がさらに学習を深めたいと思う分野を見つけていけばよいと考える。
12. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。
必修の場合は、興味を持っていたとしても必修を選択するのではないだろうか。そうでない場合は、授業内容で選択する学生が多く、当然のこととはいえ、可能な範囲で学びたい科目を選択しているようである。

（３）この授業の到達目標に関する質問結果について

13. 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。
おおむね問題はない。設問内容が、学生の受け身な態度を助長するという意見があった。
14. あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
特に問題はない。到達目標が達成できなかったと考える学生は、さらなる課題を見つけているので喜ばしいことであるという意見もあった。
15. DWCLA10 の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。
授業によってばらつきはあるが、思考力や分析力、コミュニケーション力の評点が高かった。演習系科目ではプレゼンテーション力も高い。

（４）その他

学科全体として、総合的に学内での相対的な評点は高いほうであり、教員の日頃の工夫と努力が伺われる結果であった。ただし、もともと素直な学生が多いという側面が影響している可能性もあるので、より具体的に建設的な学生の声を拾い上げるように日頃から心がけたい。学科の特性上、到達目標が形となって現れるまでの期間の問題も大きいので、授業ごとにそれを訪ねることの学生に対する影響への懸念、また、授業形態によって区別して比較しないと意味がない上に、そのことが学生の判断を誤らせるのではないかという懸念、さらに、いくつかの設問が学生の受け身な態度を助長するため教育上弊害があるのではないか、といった、アンケート自体に対する疑問がコメントとして提出された。

教育開発支援センター